

トルコ語の「güzel」に関連した誤用の一考察

大塚 知子

1. はじめに

外国人がトルコ語を勉強する時、「güzel (ギュゼル)」という語ほど、便利な言葉はないと言うことにすぐに気がつくであろう。なぜなら、この言葉だけで、多くのことを表現することができるからである。そのため、外国人が何にでも「güzel」を使うので、それを揶揄して、からかうトルコ人もいる。

私は2001年10月からトルコのエルジェス大学で日本語を教えている。着任当初から、学生の「きれい」の用い方に不自然さを感じていた。そして、今、多少トルコ語が分かるようになり、それが、トルコ語の「güzel」に関連した母語の干渉による誤用であることが分かるようになった。

そこで、今回、「güzel」とはどういう意味なのか、「güzel」に関連した誤用の実態はどのようなものなのか、どのように誤用の訂正をすべきなのかということを考えてみたいと思う。

2. トルコ語の「güzel」とは

2.1 辞書の中の「güzel」

大辞林で「辞書」と引くと、「多くの言葉や文字を一定の基準によって配列し、その表記法・発音・語源・意味・用法などを記した書物」とある。そのため、「güzel」の意味を知るには、辞書の中で、どのような説明となっているかを見るのが一番であろう。

そこで、トルコ語の「güzel」を知るために、まず辞書の中で、どのように「güzel」が説明してあるか調べてみることにする。

トルコには、トルコの現代国語を管理するトルコ国立言語研究所というものがある。その研究所編集の『Güncel Türkçe Sözlük (現代トルコ語辞典)』によると、「güzel」には9種類の意味があり、それぞれ「美しい、好ましい、良い、期待に応える、礼儀正しい、晴天、色気がある、正しい、形が整っている」となっている。

また、トルコ国内で出版されているトルコ語・日本語辞書で、最もよくトルコ人日本語

学習者が用いている辞書はムハレム・デミルジ著の『トルコ語・日本語辞典』である。それによると、「güzel」の訳は6種類あり、それぞれ「綺麗な・美しい・良い／善い（よい）・良い／善い（いい）・素敵な・可愛い」となっている。

その他に、日本国内で出版されているトルコ語辞典で、もっとも大きな辞書は、竹内和夫著の『トルコ語辞典改訂増補版』である。それによると、「güzel」の訳は7種類あり、それぞれ「美しい／きれいな／かわいい／よい／すばらしい／美人／美女」となっている。

このように、辞書を改めて見ると、「güzel」1つの形容詞に対し、複数の意味、日本語訳があることが分かる。それなので、「güzel」を1つの訳だけで言い表すことは、不可能であることが明らかである。

2.2 トルコ人にとっての「güzel」

トルコ人は、実際、「güzel」をどのように使っているのだろうか。これを調べるにあたり、5名の日本の大学院に在籍中、もしくは、在籍していたトルコ人日本語学習者に協力を得た。彼らには、日常生活を振り返り、自分が「güzel」を使う場面を思い出してもらった。そして、具体的な例を出してもらった。その結果は、以下の①～⑨のようなものだった。

- ① この部屋はきれいだ。 [Bu oda güzel.]
- ② 彼女の声は美しい。 [Onun sesi güzel.]
- ③ 楽しい時間を過ごした。 [Güzel vakit geçirdim.]
- ④ 人生はすばらしい。 [Hayat güzel.]
- ⑤ 彼女のかばんはすてきだ。 [Onun çantası çok güzel.]
- ⑥ この料理はおいしい。 [Bu yemek güzel.]
- ⑦ 心地よい音楽だ。 [Güzel müzik !]
- ⑧ 彼は面白い。 [O güzel !]
- ⑨ あの子はかわいい。 [O çocuk güzel.]

①～⑨までの「güzel」を用いた文には、1つの特徴がある。それは、「güzel」でしか表現できない文はないということである。全て、他の言葉でも置き換えることができるという。置き換えた場合、以下の①'～⑨'のようになる。

- ①' この部屋はきれいだ。 [Bu oda temiz.]
- ②' 彼女の声は美しい。 [Onun sesi etkileyici.]
- ③' 楽しい時間を過ごした。 [Eğlenceli vakit geçirdim.]
- ④' 人生はすばらしい。 [Hayat mükemmel.]

⑤' 彼女のかばんはすてきだ。 [Onun çantası çok hoş.]

⑥' この料理はおいしい。 [Bu yemek lezzetli.]

⑦' 心地よい音楽だ。 [Hoş müzik !]

⑧' 彼は面白い。 [O ilginç !]

⑨' あの子はかわいい。 [O çocuk sevimli.]

①～⑨と①'～⑨'は、何が違うのであろうか。協力者の5名に説明を求めると、①'～⑨'で表されることより、①～⑨で表される方が、より多様な意味を含むことが可能になるという。例えば、「Bu oda güzel. (①この部屋はきれいだ。)」で表現されることは、部屋が清潔であることだけではなく、壁の色の美しさや、家具や家の雰囲気の素晴らしさなどの意味を含む。しかし、「Bu oda temiz. (①'この部屋はきれいだ。)」で表現されることは、部屋が清潔であるという意味だけになるという。

以上のことから、「güzel」は、ただそれ一語で、多様な意味合いを相手に伝えることが可能な語であり、かつ、様々な肯定的な評価を表現することが可能な形容詞であるということが分かった。

2.3. 日本人にとっての「güzel」

日本語に、トルコ語の「güzel」のように、様々な肯定的な評価を表現することが可能な形容詞があるだろうか。2.2.でも協力してもらった5人のトルコ人日本語学習者と話をしている過程で、「良い」が「güzel」に近いのではないだろうかということになった。そこで、ここで、「良い」と「güzel」の比較を試みることにする。

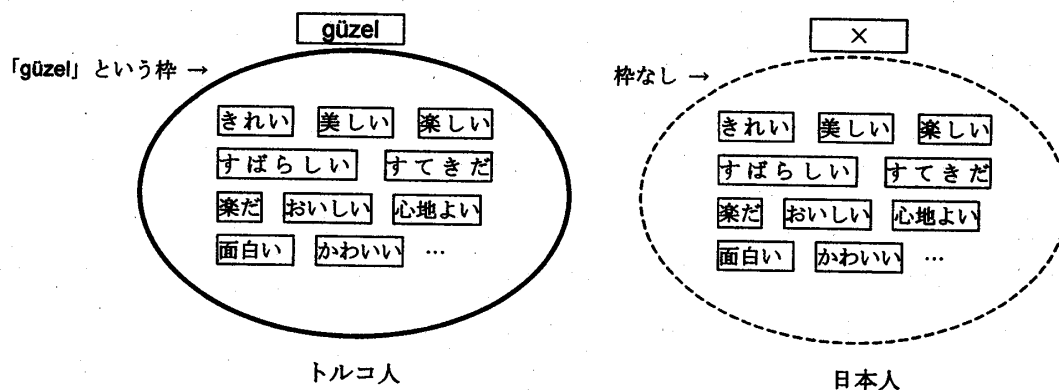
- | | |
|----------------|-----------------|
| ① この部屋はきれいだ。 | → ①" この部屋は良い。 |
| ② 彼女の声は美しい。 | → ②" 彼女の声は良い。 |
| ③ 楽しい時間を過ごした。 | → ③" 良い時間を過ごした。 |
| ④ 人生はすばらしい。 | → ④" 人生は良い。 |
| ⑤ 彼女のかばんはすてきだ。 | → ⑤" 彼女のかばんは良い。 |
| ⑥ この料理はおいしい。 | → ⑥" この料理は良い。 |
| ⑦ 心地よい音楽だ。 | → ⑦" 良い音楽だ。 |
| ⑧ 彼は面白い。 | → ⑧" 彼は良い。 |
| ⑨ あの子はかわいい。 | → ⑨" あの子は良い。 |

①"～⑨"を見る限り、「良い」に言い換えること自体には、大きな不自然さはないようである。しかし、意味が漠然とぼやけてしまったように思われる。例えば、初めて自宅に招待した人が、部屋に入ってすぐに「この部屋は良い(①")」と言ったら、何を良いと

思ったのだろうか、思うのではないだろうか。このことは、他の文でも同じであろう。しかしながら、話し手が「güzel」と言った時、話し手が「良い」と言う言葉を使った時に感じる聞き手の疑問は基本的に起こらないという。例えば、前述の状態で、「Bu oda güzel. (①この部屋はきれいだ。)」と言ったら、話し手が感じた色々な要素を総合してそのように言ったのだということが、聞き手に伝わり、聞き手がその気持ちを理解することが可能だという。このように、「良い」では、「güzel」が持つ働きをきちんと表すことはできないようだ。おそらく、「良い」に限らず、「güzel」とぴったり同じ働きをもつ日本語はないのかもしれない。

2.4. 「güzel」の感覚の日土比較

トルコ語の「güzel」の感覚を視覚的にとらえるとすれば、下記の左の図のように表すことができるであろう。すなわち、トルコ語では、様々な肯定的な評価を表現することが可能な形容詞である「güzel」という枠の中に、様々な形容詞を含む。その一方、日本語にはそのような枠はない。それなので、下記の図のように、トルコ語では「güzel」というはっきりした枠の中にある形容詞が、トルコ語と比較したら、より独立して存在しているということができるかもしれない。



3. 「güzel」に関連した誤用の実態 — 調査結果から

3.1. 調査結果

「güzel」の意味や、トルコ語内に働きが分かったところで、次に、トルコ人日本語学習者がする「güzel」に関連した誤用の実態を見てみたいと思う。

調査は、2003年度のエルジェス大学の卒業年次生（男性11名、女性13名、合計24名）を

対象に行った。調査では、まず「güzel」を使って、思いつく限りのトルコ語の文を作るように指示をした。その後、それを日本語訳にするという課題を出すことによって行った。その結果、合計146の文のうち、20の文が誤用文であった。また、誤用文の分析をするにあたっては、文を作成した学生に、何を意図しようとしたのか、トルコ語で説明をしてもらった上で、さらにこちらから確認をするという方法を用いた。以下のその集計結果と実際の誤用文である。

《正しい文と誤用文の比率》

	形容詞	正しい文		誤用文	
		文の数	%	文の数	%
①	きれい	71	48.6	19	13
②	美しい	6	4.1		
	美しさ	23	15.8		
	美人	7	4.8		
③	おいしい	8	5.5		
④	良い	5	3.4	1	0.7
⑤	素晴らしい	4	2.7		
⑥	すてき	2	1.4		
	合計	126	86.3	20	13.7

《誤用文の分析》

	誤用の形容詞	正しい形容詞	文の数
①	きれい	素晴らしい	10
		楽しい	4
		おいしい	3
		正しい	1
		良い	1
④	良い	楽しい	1
	合計	—	20

《実際の誤用文》

下線部が誤用、()内は書き手が意図したかったこと、【 】内は誤用文の数である。

〈誤用：きれい→正用：すばらしい〉

- ・生きることは、きれいだ (素晴らしい) 。【6例】
- ・学生生活は、きれいだ (素晴らしい) 。【3例】

- ・昨日のサッカーの試合は、きれいでした（素晴らしかった）。【1例】

〈誤用：きれい→正用：楽しい〉

- ・昨日、見た映画は、きれいでした（楽しかったです）。【2例】

- ・悪い事もあるけれど、毎日、きれい（楽しい）です。【1例】

- ・パーティーは、きれいでした（楽しかったです）。【1例】

〈誤用：きれい→正用：おいしい〉

- ・母の料理はとてもきれい（おいしい）です。【2例】

- ・彼はきれいな（おいしい）ケーキを作っています。【1例】

〈誤用：きれい→正用：正しい〉

- ・神様は全てのものをきれいに（正しく）想像した。【1例】

〈誤用：きれい→正用：良い〉

- ・今、きれいな（良い）職についています。【1例】

〈誤用：良い→正用：楽しい〉

- ・試合に勝ったら、週末は良く（楽しく）過ごせる。【1例】

3. 2. 調査結果の考察

調査の結果の数値を眺めてみると、明らかに、誤用は「güzel」を「きれい」と訳したことによるものに集中している。そこで、改めて、3. 1. の《正しい文と誤用文の比率》を見ると、「きれい」と訳された文が61.6%（うち正用48.6%）と目立って多い。また、課題をしてもらった紙を1枚、1枚見てみると、「きれい」と訳せる「güzel」の文しか作らない学生もいた。

確かに、「güzel」は、「きれい」という意味でもよく用いるが、「美しい」、「おいしい」、「素晴らしい」という意味でもよく用いる。なぜ、「きれいだ」と訳す文を多く書いたのか。なぜ、「美しい」、「おいしい」、「素晴らしい」と訳す文を書かなかったのか。その理由を探ることが大切であろう。

おそらく、その理由として、次のことが推測される。それは、「güzel」=「きれい／美しい」と初めは習うが、「きれい」については、「い」で終わっているが、ナ形容詞であると説明がされる。すると、学生は「güzel」=「きれい」の方が印象に残る。そのため、「güzel」=「きれい」と思い込んでしまっているのか、学生が「きれい」ともども、「güzel」は誤用を起こしやすい語であると察知して、注意するあまり、「güzel」の訳として極端に「きれい」が多くなってしまったのではないか。

この調査に協力した本学の卒業年次生は、4年間、主専攻で日本語を勉強してきた。そ

の学習の過程で、当然のこととして、「güzel」に関連した誤用について、たびたび、指摘を受けてきているはずである。そうすると、後者の理由、すなわち、学生が「きれい」ともども、「güzel」は誤用を起こしやすい語であると察知して、注意するあまり、「güzel」の訳として極端に「きれい」が多くなってしまったのではないかと思われる。

4. これまでの授業とこれからの授業

4.1. これまでの授業

今回の調査から、学生が起こす「güzel」に関連した誤用は単に母語干渉による誤用であるのではなく、トルコ語で「güzel」というところを「きれい」と訳した結果であることが多いことが分かった。その原因は、やはり授業内の指導にあったと考えるのが妥当ではないかと思う。そこで、これまでの本学の授業を振り返ってみたい。

学生が、授業内で「güzel」に触れるのは、1年次の形容詞を勉強する時である。1、2年次の文法は、トルコ人教員が担当しているため、文法、語彙の説明は、トルコ語で行われている。そこでは、今回、問題となった「きれい」の訳は、基本的に「güzel」と教えているという。教員、学生ともにトルコ語母語話者であるため、説明に不足があるとは言えないが、「güzel」と「きれい」と学生が始めて接する始まりはここにある。

その後、日本人教員のトルコ語能力などにも問題があり、学生が教員に「güzel」と訳せる日本語の意味を質問した時、教員がきちんと説明できず、学生が「ようするに、“güzel”ですね」と思うように、教員が無意識のうちに仕向けてしまっているのではないかということも考えられる。

4.2. これからの授業

これからの授業を考えるに、トルコ人教員も日本人教員も、初めから「güzel」という語を使わないで、学生に説明するというのも、1つの良いアイデアなのではないかと思う。なぜなら、実際に、2003年度の1年次に対し、一部の授業で、語彙の説明のために「güzel」を使わないということを徹底して行ってみたところ、現時点では効果が見られるからである。

また、これまで、エルジェス大学では3、4年次になるまで、日本語とトルコ語の共通点の方に重点を置き、授業をするという方針をとってきた。これは、なじみの薄い日本語に対し、もっと親近感を持ってもらいたいという教師側の願いからしてきたことである。例えば、トルコ語と日本語の文法構造が同じであることなどは、しばしば強調してきた。しかし、1、2年次の段階から、共通点と共に、ある程度は相違点があることも説明する

べきなのかもしれない。

国際交流基金の『教師用日本語教育ハンドブック⑤語彙』に、語彙の意味について「固有名詞、学術用語、専門用語、用途・種類の狭い物品の名前を除いて、意味がぴったり一致する場合というのは非常に少ないのではあるまいか。一対一の訳語を与える方法はごく初期の段階からかなり危険を伴うことが予想される。」(p. 132) とある。今回の「güzel」に関連した誤用の問題は、まさしくこれが問題となったケースである。「きれい」の訳を安易に「güzel」と翻訳せず、翻訳や説明をするに当たり、いま少し注意をするだけで、誤用は減るのではないだろうか。

5. 終わりに

今回、トルコ語の形容詞「güzel」に関連した誤用について考察を試みた。これだけを見ると、トルコ語の形容詞は様々な意味を含むものがあるが、日本語は常に一対一の意味で対応しているかのようである。しかし、実際は、言うまでもなく、日本語にも1つの形容詞でありながら、様々な意味を持つ形容詞がある。例えば、武藤彩加(2001)は、味覚形容詞「甘い」と「辛い」の味覚以外の様々な意味について、詳しく述べている。これは、「güzel」の意味の広がりと共通しているものがあるように思われる。

そこで、今後の課題としては、1つの形容詞が様々な意味を持つものをトルコ語と日本語でそれぞれ集め、そこにどういう共通点と相違点があるかについて、調べてみる必要があると思う。なぜなら、形容詞は人間の感覚や個性を表すのにとても適している。それなので、数多くの語を集め比較すれば、トルコ人とトルコ語の発想、日本人と日本語の発想の新しい一面が見えてくるのではないかと考えている。

【参考文献】

- ・春日和夫(1973)『品詞別日本語文法講座4. 形容詞・形容動詞』
「形容詞の発生」明治書院
- ・国際交流基金編(1987)『教師用日本語教育ハンドブック⑤語彙』凡人社
- ・竹内和夫(1996)『トルコ語辞典 改訂増補版版』大学書林出版
- ・明治書院企画編集部編(1997)『日本語学叢書 続日本語誤用分析』明治書院
- ・ムハレム・デミルジ(1999)『トルコ語・日本語辞典』日本文化情報センター LTD.
- ・松村明、三省堂編修所(1999)『大辞林 第二版』三省堂
- ・武藤彩加(2001)『日本語教育第110号』
「味覚形容詞「甘い」と「辛い」の多義的構造」日本語教育学会
- ・トルコ国立言語研究所編纂『Güncel Türkçe Sözlük』<http://www.tdk.gov.tr/sozluk.html>